

これはリハビリ風景です



リハビリは大入り満員で大忙し



いい笑顔です



「寝られないと血圧が」



「瓦礫の撤去で腰が痛んで」



「そうですね。本当につらいですね」



「でもすこしずつ前にいくしかないね」



高台の旅館まで津波がきました



こんなことではへこたれません



時期を考慮して、最適の支援を

- 2度目は、4月29日から5月1日に訪問。
 - 震災から一か月半経っていたので、**リハビリメンバー**を加えて、チーム編成。
 - カセットコンロと鍋を送って、「尾道焼き」を焼いてもらいましたが、これが意外と好評。
→こちらが作るのではなく、**被災者自らに作ってもらいました。**
- ⇒普段、食事作りなどに参加しない人も、役割ができて、集団生活を維持する上で、いい影響があったと感謝されました。

その近くの水浜小学校跡地では



仮設住宅が建設されていました



実は、我輩も家がないので



住宅の建設が気になります



その様子を伺いに、カモシカ君が・



チューリップも津波に負けません



私も負けずに咲いてます



避難所の皆に少しずつ笑顔も



仮設住宅への入所をめぐる問題点

- できるかぎり、これまでのコミュニティを維持した避難生活を続けたい
 - 仮設住宅への入所では、各地域の人達が、バラバラにならないように、行政と交渉・調整していきました。 ⇒ 「悪しき平等主義」をうまく処理する地域の自治能力、交渉能力が問われました。
- 水浜ではほぼ希望者全員が入所できました。

ちょっと休憩 歴史を振り返ると



これはチリ地震津波の記念塔



チリ地震津波は昭和35年



これは水浜の作楽神社



明治29年三陸大津波からの

